

## 女性が元気だと、農業も元気になるみたい

熊本は全国でも有数の

食料供給県。農業就業者数は全国第七位、新規就農者も第二位と、日本の農業を支えています。しかし一方で、後継者不足、輸入農産物の増加による価格競争など、様々な問題を抱えています。特に、女性は農業就業人口の半数以上を占め、その役割も大きくなっています。今回は、経営に積極的に参画している女性や、4Hクラブで活躍する女性若手農業者を訪ねました。リポーターは、松下玲子さん（一の宮町）と小柳理枝さん（熊本市）です。



「農閑期に花をつくるなんて、女性らしい発想ですよ」



松下玲子さん



「『農業が好き』という若い女性たちに感動しました」



県農業女性アドバイザー認定式



小柳理枝さん

「農家の嫁」は、陰の労働者というイメージが強いのですが、生産者と消費者と両方の視点を持つ女性こ

### ■妻たちの経営参画により農業に新しい希望が

日進温室組合

熊本県では、魅力ある農業経営を確立するため、自立経営体の育成や生産組織の育成を図っています。また、多様な担い手育成の一環として、農業の法人化を進めています。

私たちは、協業経営というかたちで法人化し経営的に成功を取めている日進温室組合（八代市昭和町）を訪ねてみました。

三万坪の広大な敷地には、ガラス温室とハウスが立ち並んでいます。ここでは、十月から二月にかけてトマトを、お歳暮用・お中元用としてメロンを栽培しています。

この組合は、六戸の農家十八名と、四十名の従業員から構成されています。組合長の田辺正宜さんのお話を伺うと、実に農業が楽しそうです。組合の重要会議には、夫婦同様の出席が前提。何よりも女性の意見が認められているのです。「日本の農業は女性の意気込み次第」と、何ともうれしいことをおっしゃいます。農閑期の施設の有効利用と年間雇用労

働の平準化のため、花苗栽培にも着手されていますが、これも女性の発案だそうです。「うちの女性（妻たち）は、元気できれいですよ」と、素直に言えるのがステキですね。

法人化によって、組合員は生産者の立場から経営者へと意識改革し、家計と経営も自ずと分離しました。農事組合法人であるため、報酬や給与は、毎年の総会時に全員の総意によって決定するそうです。また、法人化したことで取引先への信用が高まり、取引量も増加したそうです。農産物はブランド化され、高値で売れているそうです。就業面でも、休日、労働時間の取り決めなどで、ゆとりが増えたということです。話を聞いてみると、「明るい」「前向き」という雰囲気の中で、この組合の女性たちは農業経営体として夫たちと同等の立場で農業経営に参画しており、大切な存在であることがわかりました。農業者のプロとして、これからも大いに活躍されることを期待します。

真心をもって生産される作物に比べるように、私たちは、これからもっと日本の農業を愛し、応援しなくてはと強く感じました。農業に対する見方が大きく変わった一日になりました。

（一の宮町 松下玲子）

### ■やる気満々の女性農業者たちに感動

県農業女性アドバイザー

4Hクラブ会員

昨年十二月、各市町村からの推薦を受け、熊本県農業女性アドバイザー二十四名が誕生しました。このアドバイザー認定者は、各市町村に1〜3名ずつ、計百五十名程予定されており、地域農業の振興、農業経営、次世代の担い手や女性農業者の育成など、地域のリーダーとして、五年間意欲的な活動に取り組むことになっています。

「農家の嫁」は、陰の労働者というイメージが強いのですが、生産者と消費者と両方の視点を持つ女性こ

それが、新しい農村環境、地域振興への創造提案が出来るのではないのでしょうか。その意味においても、女性アドバイザーの方々が、今後、農業・農村の活力となることを期待しています。

ところで、4Hクラブって、ご存じでしょうか？ HEAD、HEART、HANDS、HEALTHの頭文字Hをとって、4H。十八才から約三十才までの農業の発展に取り組んでいる青年たちのクラブです。

リーダー養成のための研修会、技術交換会や学習会などのほかにも地方、町での特色ある行事の実施などを通じて、交流や情報のネットワークづくりをしています。農業を始めたきっかけや魅力を尋ねると、「楽しそうに働いている母親の姿を見て、自分も農業をやりたいと思いました」。まだ少ない女性クラブ員の中から、こんな声が聞きました。農業について熱く語る若い会員一人一人の話に、将来の明るい展望が感じられました。

農業・農村は、新たな局面を向かえつつある今、こんなに頑張っている人たちがいることに、農業に対するイメージが変わるだけでなく、大きな感動を覚え、勇気づけられたの

は言うまでもありません。

（熊本市 小柳理枝）